

第2学年E組 音楽科学習指導案

指導者：長沼 真美

- 1 題材名 合唱表現の工夫
教材名 「時の旅人」、合唱コンクール「自由曲」

2 題材について

(1) 題材観

本題材は学習指導要領の「A表現」の内容(1)「ア歌詞の内容や曲想を味わい表現を工夫して歌うこと」「ウ声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと」をねらいとして設定した。

中学2年生ではだいぶ声も安定し、歌詞の内容や曲想を味わって合唱表現を工夫させることができる。歌詞の内容や曲想を味わうとは、歌詞の内容をその背景にある情景や心情にまで踏み込んで理解したり、音楽の諸要素の働きを考えながら曲想を深く感じたりすることであると考え。また、合唱表現における活動で、自分の担当するパートがどのような役割なのかを考えたり、速度や強弱等による曲想の変化を理解、工夫することもスムーズにできるようになる。

このように、自分のパートの役割を考えたり、歌詞の内容や曲想を味わうことは、生徒一人一人が「こんなふうに歌いたい」と自分なりに曲の雰囲気を感じ取り、その思いを伝え合い様々な表現方法を試行し、比較したり選択したりしながら思いの実践を図っていくことであると考え。

本題材の学習によって、歌詞の内容や曲想を音楽の諸要素と関連づけながら味わう能力や、音楽の諸要素と関連づけながら表現の工夫をする能力を身につけさせたい。

(2) 生徒の実態(男子19名、女子15名、計34名)【アンケート回答者32名】

合唱が好きな生徒は28名おり、意欲的に合唱練習に取り組む生徒が多い。また、合唱練習中に「こんなふうに歌ってみたい」と思っている生徒は23名おり、自分たちで工夫しながら合唱を作り上げていきたいと思っている生徒がいることがわかる。しかし、実際に表現を工夫しながら合唱練習に取り組んでいる生徒は6名で、「先生に言われた通りに歌う」が13名、「強弱記号や速度記号などを参考に、楽譜に忠実に歌う」が13名であった。「こうしてみたい」と思っている生徒は多いが、実際に人前で自分の感じたことを伝えたり表現したりすることには抵抗を感じているようである。

1年時の合唱活動では、声を出すこと、一生懸命歌って気持ちの良い合唱を創ることを目標に、合唱を楽しむことを中心に学習してきた。楽譜に書かれている諸記号を参考に、楽譜に忠実に演奏しようとする姿は見られたが、自分たちで工夫して合唱を創り上げることまではいかなかった。2年時においても、まだその域を出ていない。2年時のこの題材においては歌詞の内容やテクスチャ等に着目しながら自分なりに曲を感じ取り、「こんなふうに歌いたい」と自らの思いを実際に表現につなげていけるようにさせたい。

(3) 指導観

本時で扱う「時の旅人」は、10月に行われる合唱コンクールの課題曲である。全曲を通して、ユニゾン、ハーモニー、オブリガード、かけ合いなど様々な部分で構成されている。へ長調→ニ短調→ニ長調→ト長調の転調を伴いながら曲が展開されており、曲想の変化を感じ取りやすい。無理のない音域で旋律が作られているため歌いやすく、歌詞の内容も中学生の心情をとらえたものであり、生徒一人一人が自分の思いを込めて表現するのに適している。また、曲の各部分における声部の役割がはっきりしており、速度、強弱などの表現要素による曲想の変化も豊かであるため、曲想を味わって表現を工夫するのに適した曲である。

fで堂々と歌い出す冒頭部、中間部の主旋律とオブリガード、3つの声部が重なってクライマックスに向かう終結部など、部分的に分けながら曲の構成を理解させたい。また声部の役割を知り、様々な表現方法で歌うことをしながら、各パートに相応しい歌い方を見つけさせたい。そして自分達で工

夫しながら曲を仕上げさせたい。合唱は、一人一人の声の集まりであり、意欲的な声が集まればスケールの大きい合唱を作ることができ、また、一人一人の思いを伝え合うことで豊かな表現の合唱を創り上げることができる。一人一人が思いを込めながら合唱し、曲を仕上げた時の達成感を味わせたい。

3 題材の目標

声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫して合唱することができる。

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
歌詞の内容や曲想、曲種に応じた発声や言葉の特性、声部の役割と全体の響きとのかかわりなどに関心をもち、それらを生かし曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わう、曲種に応じた発声や言葉の特性を理解する、声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解するなどして曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。

5 題材の指導計画及び評価計画（5時間扱い）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	学習活動における評価規準	共通事項
1次	1	○パート練習 ・ A～Dまでの音程を正しく取り、混声三部合唱のハーモニーを味わう。	・ 曲種に応じた発声や言葉の特性に関心をもち、それらを生かして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ・ 曲種に応じた発声や言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。	旋律 ↓ 強弱 音色 ↓ 速度
	2	○パート練習、表現の工夫 ・ E～Gまでの音程を正しく取り、混声三部合唱のハーモニーを味わう。 ・ A～Cの表現を工夫する。 ①Aの冒頭部の歌い方 ②Bの歌い方：伴奏の雰囲気から ③Cの歌い方		
2次	3	○表現の工夫 ・ D～Eの表現を工夫する。 ①Dの歌い方：アルトの「ラララ」の歌い方 ②Eの歌い方：声部の役割	・ 歌詞の内容や曲想に関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ・ 歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 ・ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。	↓
	4 本時	○表現の工夫 ・ Fの表現を工夫する。 ①リズム、歌詞、メロディーから ②オブリガードの役割		
	5	○表現の工夫 ・ Gの表現を工夫する。 ①声部の役割 ②かけ合いの歌い方 ○全体を通して合唱		

6 本時の学習（4／5）

(1) 本時の目標

各パートのリズムの特徴を生かした表現を工夫して合唱することができる。

(2) 視点とのかかわり

本時ではリズムに着目させ、各パートの特徴を感じ取らせたい。また、自分たちの演奏を聴くことによって、「もっとこうしたらいいのではないか」と、様々なことに気づかせながら、曲にふさわしい表現方法を見つけさせたい。

(3) 展開

学習内容と学習活動	○教師のかかわり 学習活動における 具体的な評価規準 ☆ [共通事項]	備考
1 発声練習を兼ねて「夢の世界を」を歌う。 2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 各パートのリズムの特徴を生かした表現を工夫して合唱しよう。 </div> 《5分》	○歌う時の注意点を確認する。 ・姿勢、口形に留意し、しっかり声を出す。	ピアノ
3 Fを合唱する。 （各パートのリズムの特徴を考えながら合唱する。） 4 Fの表現方法を考える。 ・リズムから ①女子の歌い方 ②男子の歌い方 5 それぞれのリズムの特徴を生かすための表現方法を考える。 《15分》	○各パートのリズムを感じながら合唱するように促す。 ○それぞれのパートをリズム打ちさせる。 ・やってみて感じたことは？ →女子はリズム打ちするのが大変だった。（たくさん叩かないといけないから） →男子は細かいリズムがない ・リズムはどんな感じ？ →女子は軽い感じ。細かい感じ。 →男子は重い感じ。どっしりした感じ。 ☆ [リズム] ○主旋律はどのパートか考えさせる。 ・男子？ ・女子？ ・両方？ ☆[リズム、旋律]	拡大楽譜 ヒントカード

6	全員でFの部分で合唱する。		ビデオカメラ
7	自分たちの合唱をVTRで見て評価をする。 《10分》	○表現が工夫されているか注目させて鑑賞させる。	大型テレビ
8	評価したことを生かして練習する。《10分》	○男子、女子に分かれて練習させる。 VTRを見て気づいた修正点を改善できるような練習をするように促す。	電子オルガン CD
9	全員でFの部分で合唱する。 (ビデオ録画)	○練習したことを生かして合唱するように助言する。	ビデオカメラ
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 表現を工夫しながら合唱することができる。 〈表情、演奏聴取〉 </div>	
10	VTRを全員で視聴する。 ・パートリーダーは一言感想を発表する。《7分》	○各パートの特徴が表現できているかに注目させて鑑賞させる。	
11	本時の反省、感想を記入する。 《3分》	○本時を振り返り、学習カードに自己評価するように指示する。	評価カード

